



生徒・保護者・地域の皆様へ

令和5年6月29日（第3号）

# 北中だより



<http://nk-kitanaka-j.la.cocacn.jp/>

中野区立北中野中学校

## ★ 人との関わり方を考える…

校長 津村 慶

6月は「いじめ」について考える「ふれあい月間」です。全校朝礼での岩淵先生からの話を思い出し、周りの人との関わり方についてもう一度考えてみましょう。

埼玉県教育委員会がまとめる令和4年度の人権作文集「はばたき」に掲載された中学校3年生の「私の叔父さん」という作文を紹介します。

私の叔父は片方の足に障害があるそうです。なぜ「そうです」と付けたかということ、叔父と同居している祖母からも、叔父さん本人からも何も聞いていないからです。私はその様子も見たことがないため、母から聞いたことしか知りません。

コロナ禍ということで、祖母の家に行く機会が減り、最近は叔父とも会っていませんが、今思い返せば、どんなに暑い日でもいつも長ズボンを履いていて膝から下はゴツゴツと不自然なしわを作っていました。小さい頃、叔父の膝に座らせてもらったときにその硬さに気付いた私は、祖母に叔父の足のことを何気なく聞いた記憶があります。「なんでこっちの足だけ硬いの。」というような言葉だったと思います。その時は「なんでもないよ。」というような返事をされました。私は、幼いながらも「聞いちゃだめだったんだ。」と感じたことを覚えています。それ以来、私の中で叔父の足のことは、気になっているけれど、聞いてはいけないことになりました。多分、私の姉も聞かないようにしていたのだと思います。祖母の家で話すとき、絶対に叔父の足のことについて触れないからです。

先日、思い切って母に叔父のことを聞いてみました。すると母は「そうだよね。気になるよね。」と言って、叔父の体のことや祖母の話をお聞かせしてくれました。叔父が赤ちゃんとしてお腹の中にいたとき、子宮が少し狭くて片足だけ発育できなかったそうです。何の障害もなく産んであげられなかったという祖母の気持ち、他の子と同じように偏見の目で見られずに過ごしてもらいたいという願い、どちらも中学生の私にはすべて理解できているわけではないと思いますが、きっと辛かっただろうと思います。叔父が幼稚園のとき、足の障害のことに気付いた同じクラスの友達のお母さんから避けられて以来、祖母はさらに障害のことを隠すようになったそうです。今より障害がある方への考え方や理解がなかったのかと思い、悲しくなりました。小さい頃の叔父は、足のことを友達に知ってもらいたかったのかな、中学生の頃は理解してくれる友達はいたのかな、それともずっと隠し続けているのかな、そうだとしたら辛いだろうな、と私の中でたくさんの気持ちが湧き上がりました。そう思ったのは、私が本当に辛いとき、大丈夫なのかと声をかけてもらったり、話を聞いてもらったり、自分がそのとき感じていることを知ってもらえたりすると、心が楽になるからです。私には、どんな一日だったか、何があったか、聞いてくれる家族がいます。私の生きる中で、大きな支えで安心できます。また家族以外の存在もとても大きいものです。学校の休み時間に友達と話して、気持ちを理解し合ったり、ささいなことで笑ったり、そういう中で、自分の心が元気になっていきます。当時の叔父にもそういう仲間がいたのかな、と思いました。きっと障害がある自分に不安や様々な思いがあったはずですが、それを打ち明けて共有できる友達がいたのなら「障害があっても大丈夫」と自信をもてるのだろうと考えました。 【裏面につづく】

今は叔父の小さい頃と違い、バリアフリーの所が増えました。パラリンピックで活躍されている方もたくさんいて、障害に対する考え方も変わってきています。叔父が私たちにも、まだ伝えていない人にも、足の不自由さを隠すことなく生活できる日が来たらいいなと思います。祖母の心に残る辛い思いが和らいで、せめて私や姉には隠そうとしないで済むようになったら、気持ちが楽になるのかなと思います。

世の中には、見える障害だけでなく、きっと目に見えない生きづらさを抱えている人もいます。学校で学んだLGBTQのこともそうです。また、友達との関わりの中で悩んでいることも、見えない生きづらさです。見てわかる障害、見えない生きづらさで悩んでいる人が、一人で心に抱えることなく「私には、こういう悩みがあるよ」と表に出すことができ、周りの人が手を伸ばしやすい環境になったらいいと思います。その手に対して、人を大切にすることを忘れずに、ずっと手と心を差しのべられるようになりたいと思います。背が大きい小さい、肌の色の違い、髪の毛のくせが強い、国籍の違い、体の一部に障害がある等、誰でも、それぞれ違いがあります。その違いを、その人らしさとして認め合えたら、誰もが自信をもって輝けると信じます。

相手のことを深く考え、その心情を思いやる優しさがあれば、いじめを始めとする様々なトラブルは起きにくくなるでしょう。学校生活の中でのトラブルは、ほとんどが悪ふざけや相手のことを考えない軽率な行動によるものです。また自分と相手との違いを尊重し、相手を受け入れる広い心も大切です。自分とは異なる考え方や行動、能力や容姿を「変なもの」「ダメなもの」と考える心の狭さは子どもじみた幼稚なものです。作文を書いた中学3年生のように、広く高い視点と思いやりの気持ちがあれば、誰もが過ごしやすい世の中になるはずです。皆さんがそのことを深く理解して日頃から心に留めることで、誰にとっても居心地のよい北中をみんなで作っていきましょう。

## 運動会の裏話…さすが北中の先輩たち!!

少し前になりますが、5月20日の運動会の日にとっても嬉しい出来事があったので紹介します。

閉会式とクラスごとの写真撮影が終わり、生徒が教室に戻って終学活をしていた時のことです。運動会を応援に来ていた卒業生たちが帰らずに残っていました。その卒業生に池田先生が「卒業生のみなさ～ん! 良かったらお手伝いお願い～っ!!」と声を掛けると、多くの卒業生がすぐに片付けを手伝ってくれたのです。4年ぶりの全校開催で多くの来校者が予想されたために設置した観覧用のひな壇でしたが、普段は体育館で使っているものなので、片づけにはかなり時間がかかるだろうと思っていました。しかし卒業生の先輩たちが雑巾で素速く汚れを拭き取り、折りたたんで、あっという間に片付けてくれました。

後輩の運動会を見に来るだけでなく、気持ちよく手伝いを引き受けて丁寧に仕事をしてくれた先輩たちの心根の良さに、とても温かい気持ちになりました。



## 3年生が最後の大会で見せてくれたもの…

6月に入り、多くの部活動で3年生の最後の大会が行われています。いくつかの試合を応援する中で、3年生を中心とした北中生の戦いに胸が一杯になりました。どんなに点差が離れても諦めず自分たちのプレーを貫く姿、最後の最後まで仲間を信じてパスを回す選手とそれに応えようと全力で走る選手、必ず逆転してくれると信じて一人力投を続ける投手、仲間の失点を何としてでも取り返そうと必死でボールに食らいつくプレー、全力で戦う仲間を力の限りに応援するベンチ。そんな爽やかでありながらも気迫に満ちた姿に目頭が熱くなりました。

試合の結果はそれぞれですが、そこには勝ち負けを超えた素晴らしいものがありました。部活動にかけてきた想い、仲間と共に積み重ねてきた信頼、そして自分たちの活動に対する誇りのような想いが試合をする選手や応援するチームメイトから伝わってきました。

この経験はかけがえのない財産として皆さんの中に残り、これからの人生を生きていく力となるはずです。素晴らしい戦いを見せてくれた北中生を誇りに思います。



## 原作本をシリーズで寄贈していただきました!

元父母と教師の会会長の小鹿原様より、テレビアニメの原作小説本6巻を寄贈していただきました。昨年の1月から3月に放映された作品で200年後のゲームの中の世界を冒険するファンタジー「リアデイルの大地にて」という小説です。図書館に置いてありますので興味のある人は読んでください。



## ★☆放課後学習教室「ぴよこたん」が盛況でした★☆

定期試験前の1週間、放課後に残って自主学習ができる「ぴよこたん」が開かれ、4日間で86名が学習に励みました。ぴよこたん Clubの方々が運営をしてくださり、清水先生が分からないところや質問に答えてくれています。家では誘惑に負けてなかなか勉強できないという人や、塾が始まるまでのスキマ時間を有効に活用したい人など、ぜひ積極的に利用しましょう。



## 北中生、ボランティアでも頑張っています!!

6月4日(日)に上鷲宮小学校で行われた運動会に3年生と2年生の有志7名がボランティアとして参加しました。用具係の3名は各種目の用具の出し入れや設置を行い、児童管理係の4名は低学年の児童のトイレ引率や応援席での管理を任せられました。

また、6月3日(土)に区民活動センターで開催された「子ども食堂」では家庭科部の有志4名が調理スタッフとして活動しました。毎月の第一土曜日に開かれていて、中学生以下は事前に申し込みば無料で食事ができるので、ぜひ利用してみてください。



## 薬物乱用防止教室を行いました!

6月6日(火)、中野ライオンズクラブと野方警察署の方をお招きして、5校時に1年生、6校時に2年生が薬物乱用防止教室を受講しました。1年生は「喫煙と健康について」というテーマで、また2年生は「薬物乱用について」というテーマで、それぞれ動画を視聴した後、講演を聞きました。成長期である中学生にとって、喫煙や薬物がどのような影響を及ぼすかを、映像やシンナーを使った実験を通してわかりやすく解説していただきました。また、薬物は意外にも身近なところで入手できてしまうことがあり、たとえ誘われても「はっきり断る」とことと「その場を離れる」勇気をもつことが大切だと教わりました。



## 「北中シエスタ」の取組が進んでいます

昨年度に試験的に行った「北中シエスタ」を実施時間帯や長さを改善して本格的に実施しています。「シエスタ」とは「長い休憩」を意味するスペイン発祥の習慣です。昼過ぎに休息する時間を設けることで、集中力や体力を回復させて午後の学習効果を高めることがねらいです。これまでは休憩時間を上手に使えない生徒も見られましたが、回を重ねるごとに慣れてきて、限られた時間でしっかりと休息できるようになっています。北中シエスタを行った日は、5・6時間目の授業で集中できなかったり、ウトウトしたりする生徒が減り、活発に授業を受けているように感じます。何のために行っているのかをしっかりと意識することで、より有意義な時間にしましょう。

